

令和元年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求めます。

1 調査日 平成31年4月16日(火)

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用
の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立鈴ヶ森小学校

令和元年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
教科；国語科

(1) 国語科の定着状況の概要

2年「基礎」の目標値 84.2 に対し、正答率は 89.2、「活用」の目標値 50.0 に対し、正答率は 46.1 であった。全国平均よりは、やや上回った。3年「基礎」の目標値 74.5 に対し、正答率は 73.7、「活用」の目標値 63.0 に対し、正答率は 65.3 であった。全国平均とほぼ同じで、おおむね良好といえる。4年「基礎」の目標値 70.7 に対し、正答率は 68.9、「活用」の目標値 55.0 に対し、正答率は 53.7 であった。「基礎」に関しては全国平均をやや下回った。5年「基礎」の目標値 72.4 に対し、正答率は 80.3、「活用」の目標値 57.0 に対し、正答率は 68.4 であった。全国平均を上回っており、良好といえる。6年「基礎」の目標値 73.0 に対し、正答率は 75.9、「活用」の目標値 44.0 に対し、正答率は 45.8 であった。全国平均を上回っており、良好といえる。

(2) 具体的な課題と要因

- ①「話す・聞く」の定着について：本校の児童は、「大事なことについて聞き取る」力はおおむね付いているが、「話題に沿った質問をする」、「意見と理由を考えて話す」(2, 3, 4年)「話し合い活動の参加者の共通点をまとめる」(5, 6年) ことに課題が見られる。読み取った文章を要約する機会を設けたり、市民科等の学習と連携して話し合い活動を定期的に取り入れたりする必要がある。
- ②「読む」の定着について：3年間にわたり校内研究で物語文教材を通して深く読む力を育ててきた成果が表れ、児童の読む力として定着していると見られる。「段落の役割を理解して読み取る」ことや、「段落のまとまりに気を付けて読みとる」に関しては課題が見られるので、段落相互の関係を読み取る力を3年生から段階的に育てていく必要がある。(5, 6年)。
- ③「書く」の定着について：書くことに関しては、無解答の児童が一定数おり、書く力が2分化されている。日記指導だけではなく、「2段落構成の文を書く」「指定された文字数の文章を書く」(3, 4年)「自分の意見を明らかにして文章を書く」(5, 6年) 機会を意図的に設定する必要がある。また、「手紙の返事を書く」(2年) ことやポスターや報告文など様々な書く活動を計画的に体験させていく必要がある。
- ④「言語」の定着について：送り仮名のある漢字(2年)、漢字の音訓(3年)、熟語(4年)に関して課題が見られた。今後も意図的・計画的に指導していく必要がある。同音・同訓の漢字を文章から抜き書きする問題に関しては、類型外誤答、無解答が多く見られた。同音・同訓の漢字に関しての理解を促す以外にもこのような形式の問題になれる必要がある。(6年)。

(3) 課題解決のための方策

- ①話す・聞くの定着について：聞きとったことをまとめたり、自分の意見や理由を明らかにして話したりする活動を日常的に行う。またグループでの話し合い活動や、学級全体の話し合い活動を定期的に取り入れるようにする。
- ②読むの定着について：説明文では、段落相互の関係に着目しながら考えやその理由・事例などの関係を読み取る学習(3, 4年)や文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習(5, 6年)を増やしていく。また、朝読書や継続読書(読書の木)など、日常的に読書する機会を今後も確保する。
- ③書くの定着について：日記指導に関しては引き続き行うが、与えられた課題について文章を書く活動や決められた字数の中で段落構成を意識して書く活動など、集中して文字を書く活動を計画的に取り入れる。さらに、「手紙の返事を書く」機会や調べる学習の中で複数の資料から読みとったことをもとに文章に表す機会を設定する。
- ④言語の定着について：「漢字を書く」に関しては、小テストで日常的に定着を図る。特に送り仮名、熟語、同音同訓の漢字に注意して取り組む。文の構成では、主語や述語、動詞・形容詞・修飾語を理解した上で、繰り返し問題に取り組む。ローマ字や辞書を日常的に活用する機会を今後も増やしていく。

(4) 次年度の数値目標

全学年で、国語科の正答率が区の平均に達するようにする。

令和元年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
教科；社会科

(1) 社会科の定着状況の概要

4年「基礎」の目標値 68.5 に対し、正答率は 74.4、「活用」の目標値 53.8 に対し、正答率は 60.2 であった。全国平均を上回っており、良好といえる。**5年**「基礎」の目標値 55.3 に対し、正答率は 60.7 「活用」の目標値 56.0 に対し、正答率は 66.8 であった。全国平均を上回っており、良好といえる。**6年**「基礎」の目標値 65.6 に対し、正答率は 67.6、「活用」の目標値 62.5 に対し、正答率は 70.4 であった。全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好といえる。

(2) 具体的な課題と要因

①知識・理解について：

おおむね全国と同程度、もしくは上回っている。ただし、「県の様子」（5年）の都道府県の理解の問題についてやや課題がある。

②思考・判断・表現について：

- ・「生産や販売」（4年）の商品の仕入れに見られる国内の地域や外国などの結びつきについて、資料を読み取る、「地域や市の様子」（4年）の土地の利用や交通の様子について関連付けて地図で読み取るなど、資料同士を関連付けて考えることに課題がある。
- ・「安全を守る活動」（5年）の交通安全について資料をもとに考えたり表現したりする問題や、「生活環境を守る活動」（5年）の水を大切に作る取り組みについて考える問題に課題がある。
- ・「わたしたちの生活と環境」（6年）の項目で、災害が発生した場合の対応について、とるべき行動について判断する問題に課題がある。

③観察・資料活用の技能について：

- ・一つの資料の単純な読み取りはできているが、理解をもとにして解く問題に課題が見られる（4年）。
- ・長文の資料を読み取る問題の正答率が3割程度となっている（5年）。

(3) 課題解決のための方策

①知識・理解について：

「県の様子」の都道府県の理解については、一度覚えても忘れてしまう傾向があるので、年間を通して都道府県の特徴や位置など理解の定着を図っていく。また、学年が上がっても繰り返し学習していく。

②思考・判断・表現について：

- ・資料同士を関連付けて考えることに課題があるので、ただ知識として覚えるのではなく、思考力を使いながら関連付ける時間を設けていく。
- ・水を大切に作る取組や災害が発生した場合の対応等について、体験的に学ばせていく。
- ・普段の授業から資料をもとに考えたり表現したりする学習活動を取り入れていく。また、学習のまとめを自分で書いたり、友達と考えを広め合ったりするようにしていく。

③観察・資料活用の技能について：

一つの資料の単純な読み取りはできているが、理解を基にして解く問題に課題が見られるので、知識同士を合わせて考える問題を反復して学習していく。長文の資料を読み取るために、資料活用の場面を單元ごとに位置付けるとともに、単元の終わりなどにテーマを決めて学んだことをまとめさせる。

(4) 次年度の数値目標

内容の「県の様子」の知識・理解の問題、「生活環境を守る活動」「わたしたちの生活と環境」の思考・判断・表現の問題で全国の平均に達するようにする。また、長文の資料を読み取る問題の正答率を40%以上にする。

令和元年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
教科；算数科

(1) 算数科の定着状況の概要

2年「基礎」の目標値 86.5 に対し、正答率は 89.0、「活用」の目標値 65.0 に対し、正答率は 69.9 であった。おおむね良好だが、記述を苦手とする傾向がみられる。3年「基礎」の目標値 76.6 に対し、正答率は 82.4、「活用」の目標値 53.3 に対し、正答率は 49.8 であった。数の大きさや図形に課題がみられる。4年「基礎」の目標値 77.9 に対し、正答率は 83.2、「活用」の目標値 53.8 に対し、正答率は 54.1 であった。どちらも全国平均を上回っており、良好といえる。5年「基礎」の目標値 69.6 に対し、正答率は 77.3、「活用」の目標値 52.1 に対し、正答率は 57.0 であった。全国平均とほぼ同程度だが、問題内容の「角の大きさ」「計算の決まり、変わり方」に課題がある。6年「基礎」の目標値 68.5 に対し、正答率は 72.9、「活用」の目標値 41.4 に対し、正答率は 40.9 であった。全国平均を上回っており、良好である。

(2) 具体的な課題と要因

- ①数と計算の定着について：・計算のしかたの説明が苦手である（2年）。・数の大きさを求める問題の正答率が低い（3年）。・式と問題を関連付ける問題の正答率が低い（4年）。・以上～未満を求める問題の正答率が低い（5年）。・分数と小数が混ざった問題において大きさの理解が不十分である（6年）。
- ②図形の定着について：・色板の数を求める問題の正答率が低い（2年）。・箱を構成する図形の選択問題の正答率が低い（3年）。・円の知識を応用して長さを求める問題は正答率が低い（4年）。多角形の内角の和の問題の正答率が低い（6年）。
- ③測定(1～3年)の定着について：時刻と時間では記述説明する問題の正答率が低い（3年）。
- ④変化と関係(4～6年)の定着について：・2つの数量の変化を表す問題は正答率が低い（5年）。・2つの数量の変化を求める問題では考え方の記述問題の正答率が低い（6年）。
- ⑤データの活用の定着について：・グラフ作成のしかたを説明することが苦手である（4年）。・グラフをもとに数を読み取り説明する問題の正答率が低い（5年）。・グラフから読み取れる事象を説明する問題が苦手である（6年）。

(3) 課題解決のための方策

- ①数と計算の定着について：・計算のしかたでは、図やことばを使って説明させていく（2年）。・数の大きさでは、数カードなどを用いて数多く解いていく（3年）。・式を基にした問題選びでは、式と問題の関係を十分理解させる（4年）。・数直線では数直線のかき方を指導していく。また、整数÷小数の問題では、小数の意味や大きさなどの基本を定着させる（6年）。
- ②図形の定着について：・色板の数を求める問題では、具体物を積極的に取り入れる。（2年）箱を構成する図形問題では、直方体や立方体などの具体物を用いながら理解させる（3年）。・多角形の内角の和の立式問題は、多角形の内角の和の求め方について十分理解させる（6年）。
- ③測定(1～3年)の定着について：時刻の読み方では、自分の考えを文章に表したりする学習を積極的に展開していく（3年）。
- ④変化と関係(4～6年)の定着について：・関係を式に表す問題では、□や○を使って式に表す問題をこなしていく（5年）。・2つの数量の変化を求める問題の考え方の理由を記述する問題では、学習の中で図や式を使って考えたり、考え方を記述したりする学習に積極的に取り組む（6年）。
- ⑤データの活用の定着について：・グラフの作成のしかたでは、日頃から、考え方を文章にまとめて説明する機会を増やす（4年）。・表とグラフをもとに説明する問題では、文章や口頭で説明する機会を積極的に取り入れる（5年）。・表やグラフから読み取れる事象を説明する問題では、図や式を使って説明付けする活動を展開していく（6年）。

(4) 次年度の数値目標 全学年で、算数科の「活用する力」について「目標値」に達するようにする。

令和元年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
教科；理科

(1) 理科の定着状況の概要

- 4年**「基礎」の目標値 65.8 に対し、正答率は 69.0、「活用」の目標値 53.6 に対し、正答率は 55.4 であった。
全国平均とほぼ同程度だが、内容の「こん虫の育ち方」「光のせいしつ」に課題がある。
- 5年**「基礎」の目標値 70.8 に対し、正答率は 82.1、「活用」の目標値 53.6 に対し、正答率は 61.7 であった。
全国平均を上回り、おおむね良好である。
- 6年**「基礎」の目標値 66.0 に対し、正答率は 72.2、「活用」の目標値 43.1 に対し、正答率は 49.9 であった。
全国平均を上回り、おおむね良好である。

(2) 具体的な課題と要因

- ①知識について：・昆虫、植物の成長の仕方(3年)で育つ順序について昨年度同様に目標値を下回っている。
また、太陽と影の動き(3年)、半月の動き方(4年)、台風の動き方(5年)などが目標値を下回っており、対象を観察する際の方位・地図上の方位の見方など授業で扱ったはずの知識が十分に定着していないと考えられる。4～6年を通して方位については課題である。
- ②技能の定着について：星座早見盤の操作(4年)については昨年度の課題であったが、目標値を上回った。しかし、顕微鏡で観察するときの手順・プレパラートの作り方(5年)などの技能を問う問題で目標値を下回った。顕微鏡の使い方・プレパラートの作成についての技能の定着が十分ではなかったと考えられる。
- ③科学的な思考力について：水の状態変化におけるグラフの読み取り(4年)については昨年度の課題であったが、目標値を上回った。グラフからの考察に重点を置き取り組んだことや応用問題に取り組んだ成果がみられたのでないかと考えられる。太陽と月の位置関係(6年)により、三日月が見える時間が限られている理由を考えるなどでは目標値を下回った。定着に向けて、児童に目的意識を明確にもたせ取り組んでいく必要がある。

(3) 課題解決のための方策

- ①知識の定着について：基礎的な知識に関しては、振り返りの問題に定期的に取り組み、定着が不十分な知識に関しては補充問題を実施することで、知識の定着を図る。方位については、全学級の教室掲示に方位を貼りより丁寧に指導していく。
- ②技能の定着について：観察・実験の際には目的を明確にし、常に意識させながら実施できるようにする。実験器具や材料をできるだけ全員が扱えるようにすることや時間を確保していく。顕微鏡の手順・プレパラートの作り方について、より丁寧に指導していく。
- ③科学的な思考について：実験・観察の考察や学習のまとめの際には、各人が自分の言葉で文章にまとめるように指導する。根拠などの視点を与え、予想や仮説について話し合い、すべての児童が課題について意識をもって考えられる力を付けさせていく。

(4) 次年度の数値目標

全学年で、理科の正答率が国の平均に達するようにする。